

コウノトリ 韓国で人工飼育の8羽放鳥へ

野生の希望 海渡る

野生のコウノトリが絶滅した韓国で9月3日、人工飼育していたコウノトリが初めて放鳥される。10年前にコウノトリの野生復帰を実現させた兵庫県豊岡市や研究機関が協力し、44年ぶりの野生復帰につなげようという試みが始まる。

豊岡市、研究協力で交流



韓国・礼山郡の「コウノトリ公園」の施設で飼育されているコウノトリ。韓国教員大提供



今回、放鳥が予定されているのは8羽。ソウルから約110km南の忠清南道礼山郡にあるコウノトリ公園で放される。

日本と同様、韓国でも1971年、野生のコウノトリは絶滅した。その後、日本やロシアなどから譲り受け、忠清北道清州市の韓国教員大学で人工飼育を続けてきた。

2005年9月に放鳥に成功した兵庫県立コウノトリの郷公園（豊岡市）からは6羽が譲られた。現在は約170羽を飼育。今年6

月、豊岡を参考に、人工飼育と放鳥の新たな拠点としてコウノトリ公園が設けられた。

韓国のコウノトリ研究の第一人者とされる教員大の朴是龍教授は「放鳥に向けた訓練や生息地の管理方法など、多くの知識を日本と共有できた」と話す。コウノトリの郷公園の江崎保男・研究部長は「東アジアに新たな研究拠点ができるのは心強い。日韓で個体の行き来が進めば、種の保全に不可欠な遺伝的多様性が増すことにもなる」と喜ぶ。

豊岡市は12年、トキの保護に取り組む新潟県佐渡市や、韓国南部の慶尚南道の郡などと「日韓自治体ネットワーク会議」を始めた。多様な生物と人間が共存できる環境づくりについて情報交換を続ける。



エコツアーでコウノトリが生息する湿地を訪れた韓国のメンバーら＝2月13日、兵庫県豊岡市城崎町今津

今年6月に慶尚南道を訪れた中貝宗治・豊岡市長は「（日韓は）政治的な問題を抱えていても、コウノトリをシンボルとする環境の取り組みでは両国のハートが響き合っている」と話す。民間レベルの交流も盛り上がりつつある。

13年9月には韓国の小学生が豊岡を訪れ、コウノトリがえさを捕る湿地で地元の子どもたちと生き物調査をした。昨年10月には豊岡の小学生が韓国の小学校を訪問し、コウノトリが生息できる環境づくりについて

発表した。今年2月には、市民団体などでつくる協議会が韓国の環境団体メンバーらを豊岡に招き、体験エコツアーも開いた。

豊岡市でコウノトリがすみ水辺の環境保護に取り組む市民団体「コウノトリ湿地ネット」代表の佐竹節夫さん(66)は「東アジアにコウノトリが生息する環境が広がることはうれしい。コウノトリの分布の広がりとともに人間の往来も盛んになり、文化や経済の交流も更に活発になっていくのでは」と期待する。(藤本久裕)

豊岡新聞 2015.8.31 27